

※機種により多少デザインが異なる場合があります。

### 安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
  - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を示すために、誤った取り付けをすることを想定されることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**
- 注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。**
- お守りいただく内容の種類を次の線表示で区分し、説明しています。
- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
  - 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

- ### 警告
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
  - 交流 100V 以外では使用しないこと  
発火・感電の原因になります
  - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと  
漏電した場合、発火するおそれがあります
  - 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります
- ### 注意
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
  - メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造り物に金属製ダクトが貫通する場合は、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けすること  
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
  - 製品とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆うこと  
火災などの原因になります  
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

- ### 警告
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
  - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと  
漏電した場合、発火するおそれがあります
  - 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります
- ### 注意
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること  
漏電した場合、発火するおそれがあります
  - アースを確実に取り付けること  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります  
アースの取り付けは販売店にご相談ください
  - 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること  
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒をおこすおそれがあります

- ### 注意
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
感電および故障の原因になります
  - 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと  
火災・故障の原因になります
  - 運転中は指や物を絶対に入れないこと  
けがをするおそれがあります
  - レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと  
落下によりけがをするおそれがあります
  - 製品の取り付けは確実におこなうこと  
落下によりけがをするおそれがあります
  - 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること  
裏板の切り口や角でけがをするおそれがあります
  - 作業は 2 人以上でおこなうこと  
製品は 30kg の重さがあります

### 取り付け上のお願

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者が必要となります。
  - ・大工工事（設置のための下地工事等）
  - ・配線工事（コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等）
  - ・管工事（ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等）
- 流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの透気抵抗は 400m<sup>2</sup>/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上 80cm になるようにしてください。
- レンジフード下部には、漏洩物を絶対に取り付けないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けしてください。漏洩物は高温になるため故障の原因となります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすくなく換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm<sup>2</sup> 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

### 取り付け前の調査と準備

#### 警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと  
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります

#### 注意

- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと  
火災・故障の原因になります
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること  
裏板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと  
落下によりけがをするおそれがあります

#### 取付詳細図-1 (単位: mm)

製品を支える強さが **製品質量 30kg** が必要です。

#### 取付詳細図-2 (単位: mm)

φ150 のステンレスダクト、またはスライダダクトを固定する場合は、製品とダクトとの間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆うこと

### 各部のなまえ

前ふた、後ふた、電源プラグ、スイッチ、オイルバック、誘導カートリッジ、ベルマウス、ペルマウス、整流板

### 付属品

ソフトテープ 1本  
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。

### 製品寸法図 (単位: mm)

標準取付例

※1 機種により連動線がない仕様の商品もあります。  
※2 機種によりアース線があらかじめ取り付けられている仕様の商品もあります。  
※3 取付高さ方向寸法は代表値です。寸法は図に示す仕様の商品もあります。

## 取り付けかた

### 1. 付属品の確認

#### 注意

- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること  
裏板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 作業は 2 人以上でおこなうこと  
製品はおよそ 30kg の重さがあります

付属品を確認します。  
梱包箱から付属品のソフトテープを取り出します。

**お願い**

- 保護用のクッション材と固定用テープはキズ、破損防止のため、「6. 試運転」までは必ずお読みください。(図 1-1)
- 床で作業する場合は、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

### 2. 取付準備

#### 警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造り物に金属製ダクトが貫通する場合は、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること  
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります
- 製品とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆うこと  
火災などの原因になります  
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

#### 注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと  
火災・故障の原因になります

**お願い**

- 指示図以外のコネクターは必ずお読みください。
- コネクターをはずす際は、コネクター一部分を持ち、ツメを押しながら抜いてください。(コネクターを持って引き抜かないでください。)

### 3. フードをはずします。

1) 前側のトラスねじ (M5 × 12) 2本をはずし、次に後側のトラスねじ (M5 × 12) 2本をはずして、フードを固定している固定金具をはずします。(図 3-8)

2) 前側のストッパーを押し、フード前側を少し持ち上げてから手前に引き出します。(後側はフードの引掛けが本体に引っかかっています。)(図 3-9)

**お願い**

フードをはずす際は、フード天板部にキズをつけないように注意してはしてください。

### 4. コネクターをはずします。

1) コネクターをはずす場合は、フード天板部にキズをつけないように注意してはしてください。

2) 電源プラグを天井裏などのコンセントに差し込みます。  
※必ず分電盤のブレーカーを「切」にしてからおこなってください。  
※アース (D 種接地工事) を取り付けてください。

### 2. 取付準備

#### 警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造り物に金属製ダクトが貫通する場合は、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること  
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります
- 製品とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆うこと  
火災などの原因になります  
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

#### 注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと  
火災・故障の原因になります

**お願い**

- 指示図以外のコネクターは必ずお読みください。
- コネクターをはずす際は、コネクター一部分を持ち、ツメを押しながら抜いてください。(コネクターを持って引き抜かないでください。)

### 3. フードをはずします。

1) 前側のトラスねじ (M5 × 12) 2本をはずし、次に後側のトラスねじ (M5 × 12) 2本をはずして、フードを固定している固定金具をはずします。(図 3-8)

2) 前側のストッパーを押し、フード前側を少し持ち上げてから手前に引き出します。(後側はフードの引掛けが本体に引っかかっています。)(図 3-9)

**お願い**

フードをはずす際は、フード天板部にキズをつけないように注意してはしてください。

### 4. コネクターをはずします。

1) コネクターをはずす場合は、フード天板部にキズをつけないように注意してはしてください。

2) 電源プラグを天井裏などのコンセントに差し込みます。  
※必ず分電盤のブレーカーを「切」にしてからおこなってください。  
※アース (D 種接地工事) を取り付けてください。

### 5. 電気配線

#### 警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと  
発火・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります  
アースの取り付けは販売店にご相談ください

■ 「4. 本体の取り付け」手順 4 の 2) で以下の作業をおこないます。

- 1) アース (D 種接地工事) を取り付けます。
- 2) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

**お願い**

- 電源は専用のコンセント (2 極差込接続器 15A、125V) およびブレーカーを設けてください。
- 「6. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。

### 3. 本体の準備

**お願い**

- はずしたねじは取り付けの際に使用しますので必ずお読みください。
- 整流板・オイルバック・ペルマウスを固定しているクッション・固定テープは各作業で取り除いてください。

#### 1 整流板をはずします。

- 1) 整流板の固定クッションをはずす際に整流板を両手で支え、少し押し下げるようにして整流板の左右にあるストッパーを押してははずします (図 3-1)。
- 2) 整流板を両手で支えながら、上へゆっくり持ち上げます (図 3-1)。
- 3) 整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊り金具からははずします。(図 3-2)  
※必ず左右同時にはずしてください。金具の変形の原因になります。
- 4) 整流板の固定クッションをはずします。  
※ 整流板の固定パットを先にはずすと、キスの原因になります。

### 4. 本体の取り付け

#### 注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと  
落下により、けがをするおそれがあります
- 製品の取り付けは確実におこなうこと  
落下によりけがをするおそれがあります

### 5. 電気配線

#### 警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと  
発火・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります  
アースの取り付けは販売店にご相談ください

■ 「4. 本体の取り付け」手順 4 の 2) で以下の作業をおこないます。

- 1) アース (D 種接地工事) を取り付けます。
- 2) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

**お願い**

- 電源は専用のコンセント (2 極差込接続器 15A、125V) およびブレーカーを設けてください。
- 「6. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。

### 6. 試運転

#### 注意

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと  
けがをするおそれがあります

■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。

■ 前ふた・後ふたは取り付け後に必ず試運転してください。

■ 運転時、各連動の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。

■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。

■ 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。

■ 取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

### 4. 本体の取り付け

#### 注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと  
落下により、けがをするおそれがあります
- 製品の取り付けは確実におこなうこと  
落下によりけがをするおそれがあります

### 5. 電気配線

#### 警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと  
発火・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります  
アースの取り付けは販売店にご相談ください

■ 「4. 本体の取り付け」手順 4 の 2) で以下の作業をおこないます。

- 1) アース (D 種接地工事) を取り付けます。
- 2) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

**お願い**

- 電源は専用のコンセント (2 極差込接続器 15A、125V) およびブレーカーを設けてください。
- 「6. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。

### 6. 試運転

#### 注意

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと  
けがをするおそれがあります

■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。

■ 前ふた・後ふたは取り付け後に必ず試運転してください。

■ 運転時、各連動の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。

■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。

■ 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。

■ 取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

### 7. 前ふた・後ふたの取り付け

■ 前ふたと後ふたは同一品です。また、取り付けかたも同じです。

前ふた・後ふたの取り付け手順。(図 7-1)

- 1) ふた上部 2ヶ所の引掛け部を本体の切り欠きに取り付け、左右 4ヶ所のツメを本体のスリットに差し込みます。

**お願い**

前ふたを取り付ける際は、フード天板部にキズをつけないように注意して取り付けしてください。

- 2) 下側 2ヶ所を「3. 本体の準備」手順 5 ではずした取付ねじ (M4 × 10) 2本で固定します。  
※ 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープを前ふた・後ふたを取り付けた後、もとの状態に取り付けてください。